

わにぐち
鰐口

種 別	小松市指定文化財 工芸品
指定年月日	平成7年11月3日
所 在 地	大川町(葭島神社)

鰐口わにぐちは、寺社の拝殿の前に吊るされ、参詣の際に前面に垂らした綱で打ち鳴らす仏具である。鑄造品で青銅製のものが多いが、本品は数少ない鑄鉄製である。

本件は葭島神社の本殿の前に吊り下げられているものである。形態は前後にほぼ対称で、面はふくらみを持ち、中央に直径11センチメートルの蓮華文の撞座つきざを設けている。また通常鰐口は直径30センチメートル前後が一般的であるが、本品は直径70センチメートルとかなりの大型品である。

銘文は陽鑄で表面に鑄出してあり、右側の銘文には「奉寄進鰐口 所願成就 施主 松平右衛之助 快英敬白」、左側には「慶安五壬辰年五月吉日」とある。松平右衛之助が慶安5年(1652)5月、五穀寺(藩政時代、稻荷社と同じ地にあった)に寄進したもので、利常の小松在城時にその重臣が寄進したことがわかる。

銘文によりその由緒が明らかであり、また神仏習合の遺品として重要な資料である。

